

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【平成30年7月】

■調査概要（データ対象期間：平成30年7月1日～7月31日）

- 調査期間：平成30年8月1日～平成30年8月24日
- 調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査
- 回収状況：建設業23企業、製造業22企業、卸売業11企業、小売業26企業
飲食業18企業、サービス業52企業（運輸、不動産仲介業を含む）
<合計152企業>
- 調査項目：7月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価
状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI (Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI・水準DIともにマイナス幅が拡大

1. 業況判断

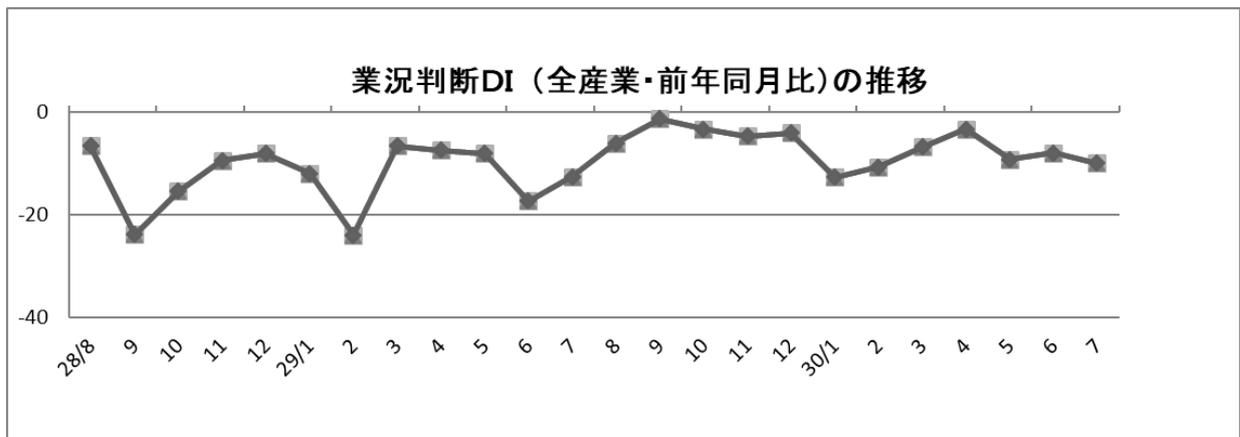
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲7.9）よりマイナス幅が2.0ポイント拡大し、▲9.9となった。業種別では、製造業がマイナスからプラスに転じた。サービス業はプラス幅から0となった。建設業は横ばいであった。卸売業はマイナスから0となった。小売業、飲食業はマイナス幅が拡大した。
- 全産業合計の水準DIは、前月（▲12.6）よりマイナス幅が1.8ポイント拡大し、▲14.4となった。業種別では、サービス業はプラス幅が縮小した。製造業、建設業、卸売業はマイナス幅が縮小し、小売業、飲食業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	16.4 (16.6)	57.3 (58.9)	26.3 (24.5)	▲ 9.9 (▲ 7.9)	17.8 (15.2)	50.0 (57.0)	32.2 (27.8)	▲ 14.4 (▲ 12.6)
建設業	8.7 (17.4)	78.3 (60.9)	13.0 (21.7)	▲ 4.3 (▲ 4.3)	8.7 (4.3)	73.9 (69.6)	17.4 (26.1)	▲ 8.7 (▲ 21.8)
製造業	40.9 (18.2)	36.4 (54.5)	22.7 (27.3)	18.2 (▲ 9.1)	31.8 (18.2)	31.8 (40.9)	36.4 (40.9)	▲ 4.6 (▲ 22.7)
卸売業	18.2 (13.3)	63.6 (53.4)	18.2 (33.3)	0.0 (▲ 20.0)	18.2 (20.0)	54.5 (40.0)	27.3 (40.0)	▲ 9.1 (▲ 20.0)
小売業	11.5 (20.0)	46.2 (44.0)	42.3 (36.0)	▲ 30.8 (▲ 16.0)	15.4 (20.0)	34.6 (44.0)	50.0 (36.0)	▲ 34.6 (▲ 16.0)
飲食業	11.1 (10.5)	22.2 (52.6)	66.7 (36.8)	▲ 55.6 (▲ 26.3)	11.1 (10.5)	22.2 (52.7)	66.7 (36.8)	▲ 55.6 (▲ 26.3)
サービス業	13.5 (17.0)	73.0 (72.4)	13.5 (10.6)	0.0 (6.4)	19.2 (17.0)	63.5 (72.4)	17.3 (10.6)	1.9 (6.4)

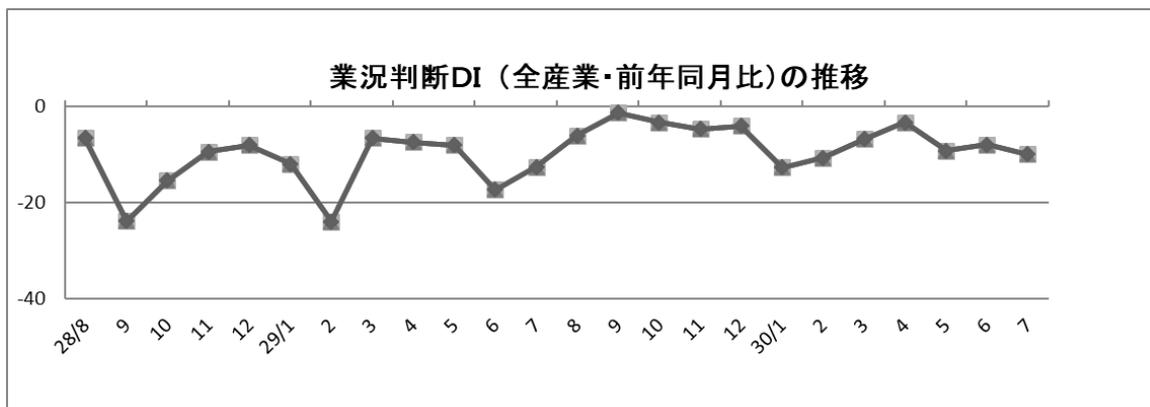
()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計
「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計



2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月（▲5.3）と変わらず▲5.3となった。
業種別に見ると、製造業、サービス業はプラス幅が拡大し、建設業はマイナスからプラスに転じた。卸売業はマイナス幅が縮小し、小売業、飲食業はマイナス幅が拡大した。

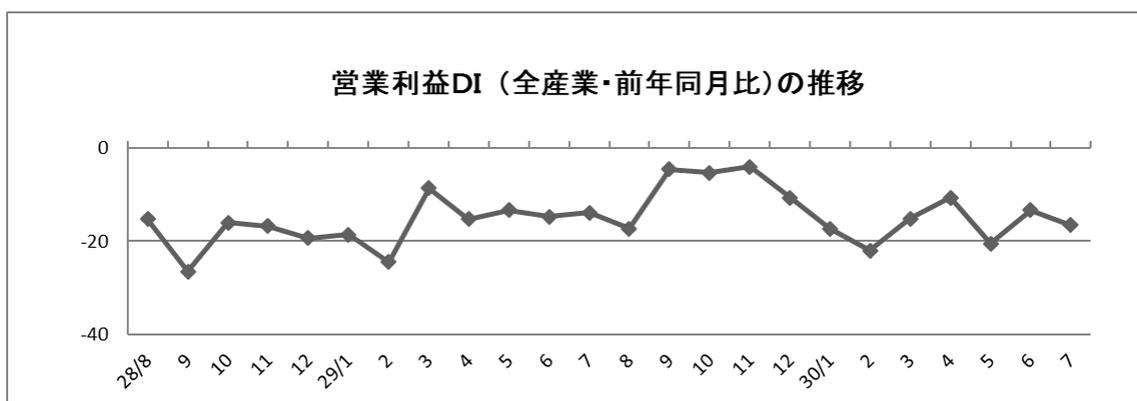


【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	29年7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
全 体	▲ 13.9	▲ 4.6	▲ 2.7	▲ 1.4	0.7	▲ 2.6	▲ 12.0	▲ 7.4	▲ 3.8	▲ 0.6	▲ 8.6	▲ 5.3	▲ 5.3	→
建 設 業	0.0	8.7	23.8	13.7	20.0	20.9	0.0	14.2	16.6	4.6	▲ 4.6	▲ 8.7	4.3	↗
製 造 業	▲ 31.8	8.7	5.2	▲ 4.5	0.0	▲ 13.7	▲ 4.3	▲ 14.3	▲ 14.3	8.7	▲ 5.0	0.0	18.2	↗
卸 売 業	0.0	20.0	0.0	13.4	13.4	25.0	6.7	12.5	7.7	▲ 15.4	26.6	▲ 26.7	▲ 18.2	↗
小 売 業	▲ 20.6	▲ 15.2	▲ 16.1	▲ 12.9	▲ 20.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 18.2	▲ 11.5	▲ 10.7	▲ 38.7	▲ 8.0	▲ 30.8	↘
飲 食 業	▲ 44.4	0.0	▲ 15.0	▲ 20.0	0.0	▲ 23.5	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 11.1	▲ 25.0	▲ 22.2	▲ 21.1	▲ 61.1	↘
サービス業	2.4	▲ 22.5	▲ 4.2	4.9	0.0	▲ 2.5	▲ 9.5	0.0	▲ 2.7	10.2	2.3	8.5	15.4	↗

3. 営業利益DI（前年同月比）

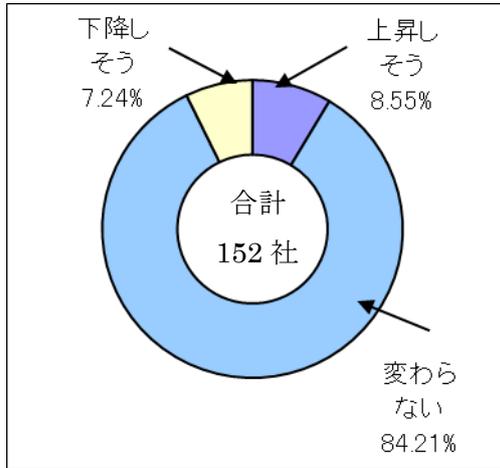
○全産業合計の営業利益DIは、前月（▲13.3）よりマイナス幅が3.2ポイント拡大し、▲16.5となった。業種別に見ると、サービス業はプラス幅が縮小した。製造業はマイナスからプラスに転じた。建設業はマイナス幅が縮小し、卸売業、小売業、飲食業はマイナス幅が拡大した。



【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	29年7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
全 体	▲ 13.9	▲ 17.3	▲ 4.6	▲ 5.3	▲ 4.0	▲ 10.6	▲ 17.3	▲ 22.0	▲ 15.1	▲ 10.6	▲ 20.5	▲ 13.3	▲ 16.5	↘
建 設 業	▲ 4.7	▲ 21.8	4.7	13.6	8.0	▲ 4.2	▲ 13.1	▲ 14.3	▲ 22.2	▲ 22.7	▲ 13.6	▲ 21.7	▲ 17.4	↗
製 造 業	▲ 36.4	▲ 8.7	5.2	▲ 9.1	5.0	▲ 4.6	▲ 4.4	▲ 47.6	0.0	▲ 4.4	▲ 15.0	▲ 18.2	18.2	↗
卸 売 業	▲ 6.6	13.4	▲ 16.7	6.7	▲ 13.3	0.0	0.0	▲ 37.5	▲ 23.1	▲ 15.4	▲ 6.6	▲ 6.7	▲ 18.2	↘
小 売 業	▲ 17.6	▲ 21.2	▲ 9.7	▲ 9.7	▲ 20.7	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 15.1	▲ 26.9	▲ 25.0	▲ 54.9	▲ 20.0	▲ 46.2	↘
飲 食 業	▲ 38.9	▲ 25.0	▲ 10.0	▲ 25.0	0.0	▲ 23.5	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 22.2	▲ 31.2	▲ 33.3	▲ 36.9	▲ 66.6	↘
サービス業	4.9	▲ 25.0	▲ 4.3	▲ 4.9	▲ 2.3	▲ 9.8	▲ 16.7	▲ 5.1	▲ 5.4	8.1	▲ 2.3	4.3	1.9	↘

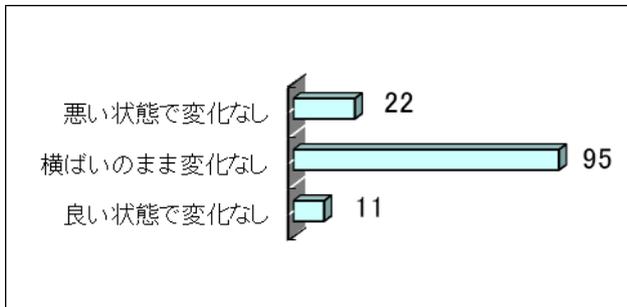
◇ 向こう3カ月の見通し ◇



○平成30年8月～平成30年10月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ6.68ポイント減少し8.55%、「下降しそう」が1.28ポイント増加し7.24%となった。業種別の見通しDIは建設業(8.7)、製造業(0.0)、卸売業(0.0)、小売業(0.0)、飲食業(0.0)、サービス業(0.0)であった。

➡「上昇しそう」では「公共工事の発注がピークを迎えるため」(建設業)「8月の受注が多いため」(製造業)「新規事業を立ち上げたため」(製造業)「気温が平年並みになってくれれば回復すると思われるため」(小売業)「夏、秋の観光シーズンに入るため」(飲食業)といった声が寄せられた。

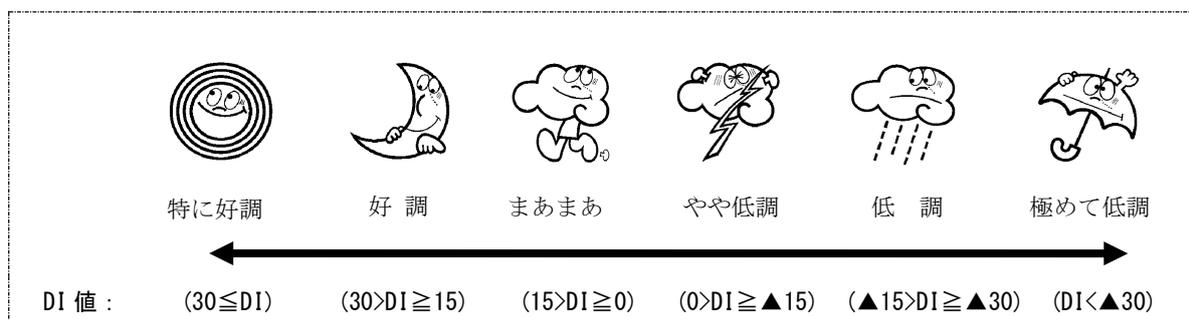
➡「変わらない」では「3ヵ月先まで現在の価格水準で受注が確定しているため」(建設業)「繁忙期になるが西日本豪雨災害による受注落ち込み分があるため」(製造業)「例年通りお盆シーズンや夏のため」(飲食業)「観光シーズンのため」(サービス業)といった声が寄せられた。



➡「下降しそう」では「8、9月は1年で1番低迷する時期のため」(製造業)「お客様がお土産を買わないため」(製造業)「気候が不安定なため」(小売業)「悪天候で野菜の価格が上昇しているため」(飲食業)「昨年あった団体予約が今年はないため」(サービス業)「首都圏があまりにも暑すぎると、人の移動が少なくなるため」(サービス業)といった声が寄せられた。

業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



【項目別DIの推移】

	29年7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	0.0	8.7	23.8	13.7	20.0	20.9	0.0	14.2	16.6	4.6	▲4.6	▲8.7	4.3
受注量	0.0	▲8.7	9.6	18.2	4.0	12.5	▲8.7	19.1	▲9.5	▲4.5	0.0	0.0	13.1
受注単価	4.8	0.0	4.7	▲4.6	0.0	▲12.5	▲8.7	▲9.5	▲5.5	▲4.5	0.0	▲8.7	0.0
営業利益	▲4.7	▲21.8	4.7	13.6	8.0	▲4.2	▲13.1	▲14.3	▲22.2	▲22.7	▲13.6	▲21.7	▲17.4
見通し	14.2	4.4	0.0	▲4.5	4.0	0.0	8.7	14.3	0.0	4.5	18.2	13.1	8.7

<経営者の目・見方・e t c>

建築・土木工事

土木工事

管工事

建設工事

建設業

総合建設

鉄工

- ・暑さのため、現場での作業効率が落ちている。利益低下につながる。
- ・ゼネコン各社も受注量は少なめであるが堅調のようだ。
- ・受注単価は以前と変わらず、仕入材料、経費が上がってきている。今の時代は業種により差が出てきている。特に運送業は悪いと思われる。
- ・小口の受注が主で、単価も伸びずに人手がかかる案件が多い。
- ・工事の受注量は少しずつ増えているが、資材の高騰や人手不足からくる人件費の上昇など施工コストも増えている。技術者の人手不足も慢性的な課題となっている。
- ・県知事選挙の影響か県の工事発注が鈍い。
- ・同業他社の様子を聞くと、むこう3ヵ月くらいは非常な繁忙状況のようである。また、全国的にも材料供給もままならないほどの状況にあるようで、加工しようにも材料供給が間に合わなければ納期の設定もできないような感じである。裏付けを取ったうえで受注しないとならないようで、今後の対応は慎重にしていきたいと考えている。
- ・工場、倉庫、宿泊施設、東京五輪関連施設、地場中小物件の増加等需要は増

加しているが、鉄骨の材料、各種鋼材の供給が追い付かない。鋼材の入荷遅れで鉄骨製品の納入が建方工期に間に合わない現状である。
 ・秋の工事見積りが少しずつ増えてきている。

2. 製造業



【項目別DIの推移】

	29年7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	▲31.8	8.7	5.2	▲4.5	0.0	▲13.7	▲4.3	▲14.3	▲14.3	8.7	▲5.0	0.0	18.2
受注量	▲27.3	4.3	15.8	▲9.1	0.0	▲13.6	▲8.7	▲14.3	▲9.5	8.7	0.0	▲4.5	4.6
受注単価	▲27.3	▲4.4	▲10.5	▲18.2	▲15.0	▲13.6	▲8.7	▲23.8	▲23.8	▲13.0	▲5.0	▲18.2	▲13.7
営業利益	▲36.4	▲8.7	5.2	▲9.1	5.0	▲4.6	▲4.4	▲47.6	0.0	▲4.4	▲15.0	▲18.2	18.2
見通し	▲4.5	0.0	▲5.3	0.0	▲5.0	▲9.1	8.7	9.5	▲14.3	▲8.7	15.0	▲4.6	0.0

<経営者の目・見方・etc>

印刷

- ・7月26日～31日に東京ビッグサイトにて国際総合印刷テクノロジー&ソリューション展「IGAS2018」が開催された。3年に1回の業界最大規模(国内で)の展示会、6日間での来場数56,000人であった。3年前の「IGAS2015」とほぼ同数の来場者であるが来場数は20年前の5分の1になってしまった。業界の淘汰も終焉になったか。
- ・今まで悪質なデフレ営業がされてきた結果、厳しい業界状況になってしまった。良い製品を届けるための丁寧かつしっかりとした仕様書作成、それに基づいた最低価格制度になることを願う。
- ・海外大手メーカーの製作用アプリケーションが課金制度になって久しい。しかし地元の印刷業でその課金制度の必要なバージョンにまでアップグレードしている企業は極めて少ないのではないだろうか。
- ・数年に1度の開催となる世界的な印刷機材展「IGAS2018」が東京ビッグサイトで開催された。大型オフセット印刷機の展示は数社に限られ、インクジェットプリンター、カラーレーザープリンターなどの超大型機が活況で展示数を多く占めていた。今までは印刷機メーカーのブースが大規模で活況であったのに対し、後加工工程のメーカーブースが最も広いコマ数で来場者の賑わいもあった。
- ・猛暑のため、菓子類の受注が氷菓子に取られて減少気味であった。
- ・西日本豪雨災害により、販売に二次的被害が出た。
- ・ここ半年ほど塗装の受注が増え、黒字基調で推移している。銘板は多少低下しているが、全体で良い状態である。原材料、原油の値上がりが心配。また米国の関税のゆくえも心配である。

菓子

機械

金属塗装

3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	29年7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	0.0	20.0	0.0	13.4	13.4	25.0	6.7	12.5	7.7	▲15.4	26.6	▲26.7	▲18.2
販売客数	6.6	6.7	0.0	▲6.7	6.6	0.0	0.0	0.0	▲15.4	▲7.7	0.0	▲6.7	0.0
販売客単価	0.0	6.7	▲8.4	6.6	13.3	18.8	6.7	18.7	23.1	0.0	▲6.6	▲6.7	▲9.1
営業利益	▲6.6	13.4	▲16.7	6.7	▲13.3	0.0	0.0	▲37.5	▲23.1	▲15.4	▲6.6	▲6.7	▲18.2
見通し	▲13.3	6.7	▲8.3	▲6.7	▲6.7	▲6.2	▲13.3	▲6.3	0.0	▲7.7	6.7	0.0	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

土産品

・西日本地区の大雨などの影響なのか売り上げが低迷している。昔のような涼しい信州に戻ってほしい。

金属製品

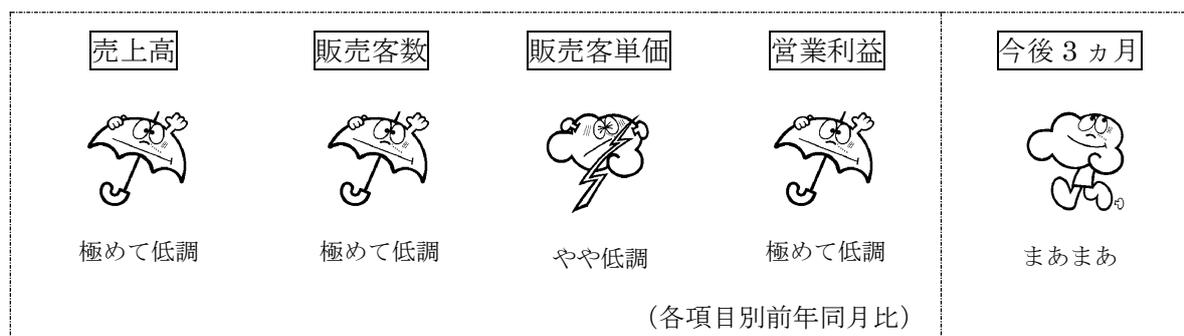
・半導体、自動車に一服感はあったものの、建設機械、産業機械は好調に推移している。

・建設関係の副資材(ボルト類)に一部納期遅れが出ている。

機械工具

・受注があるため売上につながっている。ただ、危険な暑さのため体力疲労が気になる。

4. 小売業



【項目別DIの推移】

	29年7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	▲20.6	▲15.2	▲16.1	▲12.9	▲20.7	▲16.7	▲33.3	▲18.2	▲11.5	▲10.7	▲38.7	▲8.0	▲30.8
販売客数	▲17.6	▲9.1	▲16.1	▲22.5	3.5	▲30.0	▲25.9	▲18.1	▲27.0	▲10.7	▲25.8	▲32.0	▲38.5
販売客単価	▲23.5	▲24.3	▲19.3	0.0	▲10.4	0.0	▲3.7	3.0	11.6	17.9	▲19.4	0.0	▲7.7
営業利益	▲17.6	▲21.2	▲9.7	▲9.7	▲20.7	▲20.0	▲33.3	▲15.1	▲26.9	▲25.0	▲54.9	▲20.0	▲46.2
見通し	▲5.9	▲9.1	▲3.2	3.3	3.4	▲13.3	7.4	0.0	▲3.9	▲3.6	3.2	4.0	0.0

<経営者の目・見方・e t c>

印章

・猛暑日が続く、街には観光客しかいないのではないかと心配したが、注文は多かった。法人設立時の印鑑登録廃止という案については業界団体の反対が強く、印鑑登録制度は継続しそうである。ただ、100%オンラインでの法人設立が出来るようにするという方針は変わらないようだ。

観光物産	・全体に停滞している。インバウンドや日本の団体客が少ない。8月に入っ ての夏休み、お盆に期待している。
住宅機器 ショッピングセンター	・やっと昨年並みに動いてきた。 ・猛暑により街場への動員も減少傾向と思われた。年々セールへの期待感 は薄れているようだが、秋物の立ち上がりに関しては順調で独自性のある商品 に関しては順調に推移している。
化粧品	・酷暑と豪雨災害の影響なのか買物客はかなり少ない。イベントは多く、観光 都市松本のイメージは定着しているのかもしれないが、商都の印象はかなり 薄れてしまっているのかもしれない。
薬局 陶磁器	・今月はセールを行った。暑すぎたため、配送を希望される方が多かった。 ・少し暑いくらいなら夏物の消費にはプラスだが、記録的な猛暑が連日続く となると、炎天下の商店街を歩くような観光客は皆無である。「さわやか信州」 を期待して来た観光客には申し訳ない気分になった。
生鮮食品	・猛暑日が続く、売上は伸びているが仕入値が高く大変である。7月前半の 大雨により各地で多くの犠牲者が出たことを受け、毎日仕事ができることが 大変ありがたいと感じている。
おやき	・早い梅雨明けの後に酷暑が続く、人が出てこない。酷暑が収まるのを待つ しかないが、作り方教室の講師の要請が数件あり、他のイベントの需要が数 件あったので暑い夏を乗り切れそうだ。
婦人服	・暑さもあって来客数が少なかった。7月に入っのセールスタートと遅いセー ルで定価商品、セール商品共に売上の数字を落とした。セールを売り尽くす 工夫も必要だと思う。

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	29年7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	▲44.4	0.0	▲15.0	▲20.0	0.0	▲23.5	▲25.0	▲35.0	▲11.1	▲25.0	▲22.2	▲21.1	▲61.1
販売客数	▲38.9	▲12.5	▲10.0	▲20.0	5.9	▲23.5	▲30.0	▲30.0	0.0	▲12.5	▲22.2	▲21.0	▲72.2
販売客単価	▲33.3	6.3	▲15.0	▲25.0	0.0	▲23.5	▲25.0	▲10.0	▲5.5	▲12.5	▲16.6	▲10.5	▲33.3
営業利益	▲38.9	▲25.0	▲10.0	▲25.0	0.0	▲23.5	▲30.0	▲35.0	▲22.2	▲31.2	▲33.3	▲36.9	▲66.6
見通し	▲5.6	▲6.2	0.0	▲5.0	5.9	▲17.6	25.0	5.0	5.5	▲6.2	▲5.6	21.0	0.0

<経営者の目・見方・etc>

寿司	<ul style="list-style-type: none"> ・最高気温が35度を超える日が続くなど天候に左右されるところもあったが、ひと月を終えてみれば例年並みの動向であった。今後は、降水不足に伴う青果の値上げ等が気にかかる。 ・この時期になると鰻の事が気になる。相変わらず高値安定である。長年低価格で鰻料理を提供してきたが、さすがに利益が出ないため今シーズンは約1割の値上げをさせてもらった。それにもかかわらず今年ほど鰻の売れた年もめずらしい。生
----	---

そば

命にかかわる暑さのせいか。

- ・猛暑、豪雨、土砂災害、地震などいつどこで起こるか分からない。明日は我が身ではないが、この先人々が危機感を自覚して生活をしていかないとさらなる災害による被害が起きるかわからない。
- ・猛暑のため皆が外出を控えている。

仕出し料理

- ・年々7月から気温が上昇して猛暑日になる日が多くなり、夏季食中毒注意報が3回も発令され食品の仕入れ、調理、保存管理、配送に注意を払った。

郷土料理
料理

- ・異例の猛暑や台風の警告等で外出を控える傾向からか、客足が減少した。
- ・ワールドカップや暑さのせいか人があまり通らず、来客数が減った。

中華料理

- ・暑いからなのか、ワールドカップだからなのかどうしてなのかわからないが、夜の街にあまり人出がなかった気がする。
- ・イベントに人手不足が重なり参加できず、また協力金が多くなっている。しかし各地では災害があるにもかかわらず商売ができていることに感謝を忘れずにやっていきたい。

食堂

- ・今月は異常な暑さが続いた影響で、来店者数が大きく落ち込んだと思われる。大型商業施設は冷房が効いた快適な環境で多くのお客さんで賑わっているが、外は暑いので周辺のお店に出て食事をするような人は少ないと思われる。

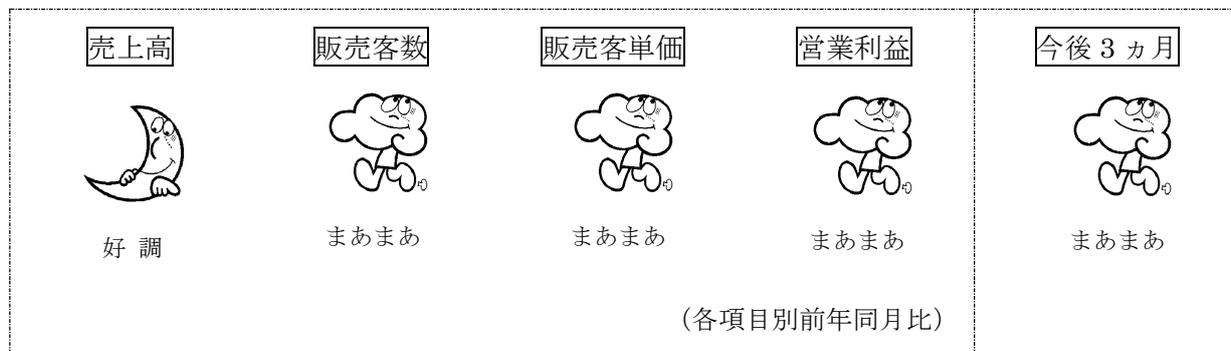
居酒屋

- ・猛暑によりサラリーマンの帰宅が早かった。32度以上になるとアルコールを控えるというデータがあり、その通りの結果となった。

洋風居酒屋

- ・前半のワールドカップや、台風の影響のためか客足が少なかった。

6. サービス業



【項目別DIの推移】

	29年7月	8月	9月	10月	11月	12月	30年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
売上高	2.4	▲22.0	▲4.2	4.9	0.0	▲2.5	▲9.5	0.0	▲2.7	10.2	2.3	8.5	15.4
販売客数	▲2.5	▲24.4	0.0	0.0	▲2.3	▲9.8	▲23.9	▲12.8	▲5.4	6.1	▲8.9	6.4	1.9
販売客単価	0.0	7.4	▲4.2	9.8	▲4.6	▲2.4	▲4.8	0.0	8.1	4.0	4.4	4.3	5.8
営業利益	4.9	▲24.4	▲4.3	▲4.9	▲2.3	▲9.8	▲16.7	▲5.1	▲5.4	8.1	▲2.3	4.3	1.9
見通し	0.0	▲4.9	8.5	▲4.9	0.0	0.0	▲4.7	2.6	8.1	6.1	8.9	14.8	0.0

<経営者の目・見方・etc>

自動車整備、
板金塗装

- ・7月の暑さが厳しすぎる。故障車が増えるかと思えばそれほどでもなく、事故車はなぜか多く入庫している。暑さで体も心も弱っているようだ。従業員の体のケアも大切にしないとイケない時期だ。

観光旅館	<ul style="list-style-type: none"> ・早すぎる梅雨明け発表の後の西日本豪雨や豪雨による通行止め、酷暑などお客様にとっては移動する気持ちになれなかったのではないかと。気象庁も異常気象と認めているが7月としては異常な暑さを高冷地でも感じた。その中で何とか昨年並みの入り込みを確保できたのは、外国のお客様のおかげだと思う。
温泉旅館	<ul style="list-style-type: none"> ・今月もスポーツ、観光で宿泊者数が増えている。インターネットによる影響力が大きく、松本のイベントが知られてきた。
ホテル	<ul style="list-style-type: none"> ・西日本豪雨災害により、宿泊・宴会部門にてキャンセルが発生した。レストランでは昼間の集客に若干鈍さが出た。猛暑による外出控えが影響していると思われる。
宿泊	<ul style="list-style-type: none"> ・週末に雨が多く宿泊客は減少した。宴会はまあまあだった。 ・上旬の西日本豪雨災害による影響があった。後半の台風報道により、キャンセルが生じたが全般的に良かった。
写真	<ul style="list-style-type: none"> ・約10%だが伸びている。感謝である。
リラクゼーション	<ul style="list-style-type: none"> ・繁忙期が始まったため忙しかった。
タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に比べ好天が多く、上高地方面の観光地の運行回数と実車キロ数が増えて、売上は良かった。
機械設計	<ul style="list-style-type: none"> ・納品が少なかったため売上は落ちた。引き合いは多いので今年はまずまずだ。部品が何ヵ月もかかるものがある。
ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ・冊子印刷は7、8月に動きが出ると予想される。全体的に低調である。 ・同業では引き合いも多いが、新しい技術に対する設計、マネジメントの経験者が圧倒的に不足している。顧客企業については、今後消費税などの変更が予想されるため、早めのシステム企画が必要と思われる。
ホームクリーニング、リネンサプライ	<ul style="list-style-type: none"> ・松本市内を中心としたホテル、旅館の稼働は順調である。
ペットサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・来店数、売上共に前年並みであった。8月は夏休み、お盆とペットホテルの予約が見込める。暑い日が続くとサマーカットの動きが出ると予想する。時短勤務であるが主婦のスタイリストの活躍により、チームのムードも上昇中である。
獣医	<ul style="list-style-type: none"> ・記録的な酷暑が続いた。昔は屋外で犬を飼育することが多く熱中症も多かった。現在では小型犬が主流となってきていて、屋内で人間と共に生活しているため熱中症は少なくなった。
マナー講師	<ul style="list-style-type: none"> ・夏場は特に動きはないが、夏休みを利用しての新規開拓は少々見込めそう。
美容	<ul style="list-style-type: none"> ・新規のお客様のほとんどが美容院での失敗が原因で髪に悩まれている。勉強をしていない美容院が増えていると感じる。
測量、建設コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事は少しずつ出ているが、競争が激しく受注に結び付かない。
教育業	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに入り帰省する家族、出かける家族もあり、休みや変更が多かった。ただ、夏休みに集中して習いたいとの申し出もあった。